

家 数

延宝5年(1677)の浜松町村帳では 16戸

諸役御免

「風土記伝」に村中諸役御免とある。諸役の代表的なものは助郷であるが、当村は助郷が課せられていない。

家康の家臣

「伊藤家」の文書に、彦坂九兵衛光正手形〔慶長7年9月3日(1620)〕、豊島作右衛門忠治手形〔同年同月10日〕が載っている。「寛政重修諸家譜」によれば作右衛門は天正19年(1591)より家康に仕え、御代官となり采地を賜り大坂の陣の時は、天竜川の船奉行を務めた。

I 東照宮(口碑)

愛称標識「権現の竹藪跡」が立っている所は、昔安間川の堤防であり竹藪になっていたという。徳川家康は武田勢に追われ、竜光村に逃げてきたとき、村人は竹藪の中にあつた不浄小屋に家康を数日かくまって難を救った。後日天下を取った家康は、大難を救ってくれた村人の恩義に報いるため、「諸役御免」の特典を竜光村に与えた。この恩典に対する村人の感謝の気持ちが東照宮を建てたと伝えられている。

- ・「東照宮三百年祭記念 昭和四十八年七月 伊藤眞一」の石柱が立っている。
- ・徳川家康の命日(元和2年4月17日)の前日にお祭りが行われている。

II 神明神社

○創 立 …… 神官大橋家文書に、創立不詳としながらも「元和二辰ノ七月二十一日(1616) 佐藤太郎兵衛ヨリ御墨付キヲ以テ神明社領トシテ高二石五斗ゴ寄附ノ古文書アリ」とある。同文書に延享四年(1747)九月二十八日に上棟式が行われたことも記している。

○祭 神 …… 天照大御神・豊受大神(伊勢神宮の祭神と同じ)

○本殿・拝殿の造り ……神明造り

○千 木 ……本殿・拝殿とも千木がそびえている。主神が女神の場合は千木の先端が水平であり、男神の場合は垂直である。(伊勢神宮の主神は天照大御神、女神であるので千木の先端が水平。出雲大社の主神は大国主命、男神であるので千木の先端が垂直) *次頁の資料参照

○鳥 居 …… 神明鳥居(大正2年 12 月 建立)

○のぼり立て …… (大正 2 年 10 月 建立)

○祓戸四柱大神 …… 昭和5年 5 月 30 日 陛下静岡縣行幸記念建立

・人に災いする四方の悪神・悪霊を祓い落とし、村及び村中各戸の幸福・発展を見守る。(四方を清め、悪神・悪霊が入り込めないように聖域を保つ)

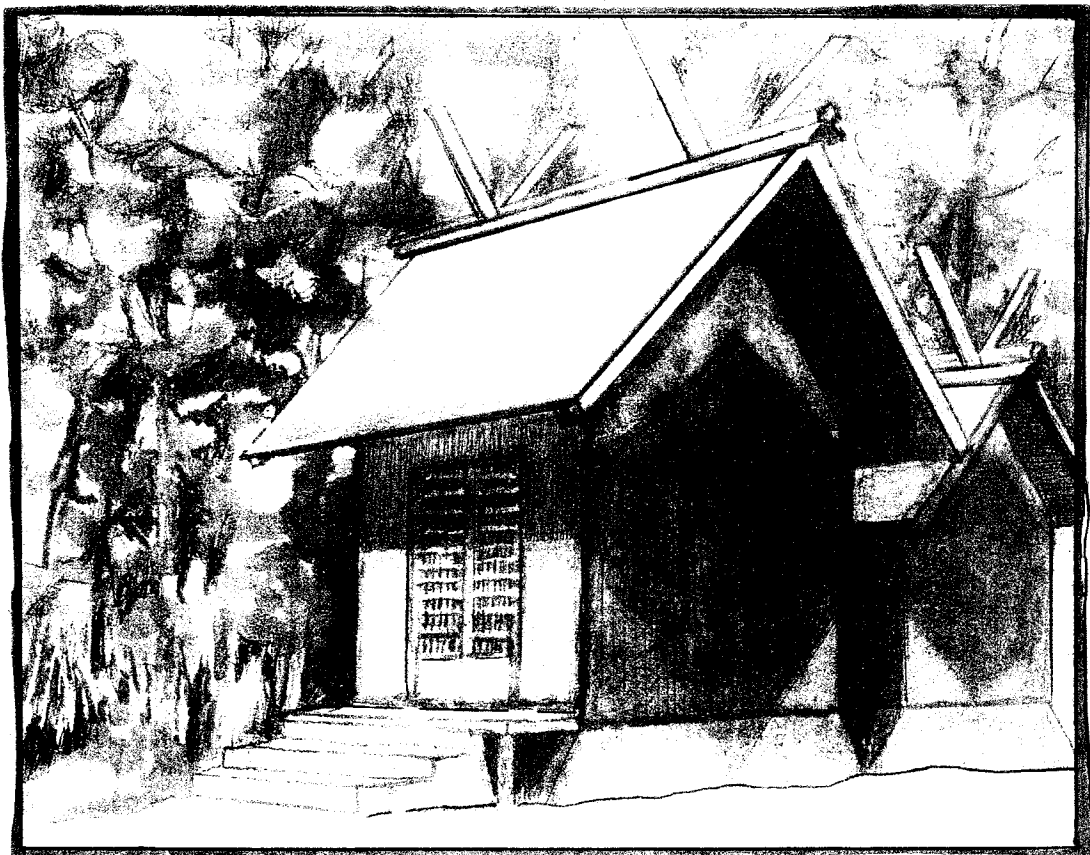
・四方の神: **東** 青竜 **西** 白虎 **南** 朱雀 **北** 玄武(平安京の四神)

○東照宮(前掲) ○記念(明善題額書) ○再建記念碑(昭和 48 年 建立 公会堂兼社務所建設記念)

III 天王さま 疫病の神様である。(神明神社から150mぐらい南)

IV 記念(金原明善題額)

何の記念? みんなで調べましょう



天空にとどく千木

神明神社の千木

千木(ちぎ) 知木 鎮木とも書く。社殿の屋上、破風(はふう)の先端が延びて交叉(こうさ)した木。後世、破風と千木は切り離され、棟上に取り付けた装備(置き千木)となった。シンプルで清楚な感じを与える。はまホール前庭に国際的な芸術家 清川泰次の彫刻(モニュメント)がある。それとも相通じるものがある。

V 記念碑(明善題額書)の用語解釈

農桑Ⅱ農耕と養蚕と

畳石Ⅱ畳とは座敷の床の上に敷く敷物。「畳」は、ここでは動詞として使う。石を畳む、または石を敷くと読みたい。

架石Ⅱ「石缸を架く。」 石缸は飛び石のこと。

堪永久神苑之観於是乎Ⅱ乎は「か」と読む。疑問の反語である。(表現効果を強めるために)言葉は疑問の形にして、逆に肯定の意味を表す。黙っていられようか。(否 いられない)「永久に神苑(境内の庭園)の景観に堪えられようか」。なお「堪」は、満たす、満足するの意。

改修溝渠Ⅱ溝も渠も「みぞ」の意。地面を掘ってつくった水路。

乃勒貞珉Ⅱ「乃」は文字数を揃えるための置き字。

「勒」は石碑に文字を刻む。貞珉Ⅱ石碑。

伊藤豊 撰・并書Ⅱ撰文併せ書く。